

令和7年度阿賀野市病院事業経営改革審議会

日時：令和8年3月2日（月） 18：30～19：30

場所：阿賀野市役所 1階 第一多目的ホール

出席者：

【外部委員】

本田吉穂（新発田北蒲原医師会阿賀野支部長、本田脳神経外科クリニック院長）

近藤浩（医療法人潤生会理事長、脳神経センター阿賀野病院長）

渡邊守朗（新潟県立新発田病院事務長）

【内部委員】

西潟治子（総務部企画財政課長）

【市（事務局）】

吉川麻子（民生部長）

江口教子（健康推進課長）

渡辺達郎（健康推進課長補佐）

清水ひろみ（健康推進課病院管理係長）

加藤醇士（健康推進課病院管理係主事）

傍聴者：0人

会議次第

1 開会

2 挨拶

3 会議

（1）令和6年度収支状況等について

（2）令和7年度あがの市民病院（指定管理者）決算見込みについて

（3）あがの市民病院の経営改革に係る計画について

4 その他

5 閉会

会議録

○事務局 阿賀野市病院事業経営改革審議会開催の宣言、及び会議録の公開等の説明と確認。

阿賀野市病院事業経営改革審議会参加への謝辞。

各委員、事務局の自己紹介の依頼。

＝各委員、事務局あいさつ＝

○委員 次第3（1）令和6年度収支状況等について、事務局の説明を求める。

なお、事務局の説明が終わった後で委員からご質問やご意見をいただく時間を設けるので、円滑な会議進行のため皆様のご協力をお願いしたい。

○事務局 （1）令和6年度収支状況等、（2）令和7年度あがの市民病院（指定管理者）決算見込みについて説明。

○委員 それでは皆さんからご意見を願います。

○事務局 (1) と (2) を続けて説明。

○委員 (1) と (2) についてご質問、ご意見があればお受けする。

次第 (3) あがの市民病院の経営改革に係る計画についての後に、またご意見をお受けするので、先に (3) あがの市民病院の経営改革に係る計画について事務局に説明を求める。

○事務局 (3) あがの市民病院の経営改革に係る計画について説明。

○委員 では委員からご質問ご意見ありましたら願います。

○委員 資料 1-2-③の入院、外来単価の増は、説明にあった加算が主な要因か。又は他の要因か。

○事務局 入院については、感染対策向上加算や認知症ケア加算の基準格上げなどが大きく影響していると病院から聞いている。外来については、2年前の診療報酬改定直後は糖尿病関連の指導料がなかなか取れなかったが、加算が取れるよう取り組みをしていると聞いている。

○委員 他にご質問ご意見はあるか。

○委員 資料 3-1 の I の (2) の開業医からの受入件数について、昨年の阿賀野市病院事業経営改革審議会で、先生からあがの市民病院へご紹介いただいたのに入院に至らないことがあるとご指摘いただいていたが、開業医からの受入件数は昨年度から増えており、引き続き市内の先生からそのような形で取り組みをお願いしたいと思っているところなので、どのような傾向か教えていただきたい。

また、お二人の病院では、地域の医院からの受け入れに当たって、どのように受け入れを進めているのか、また受け入れは増えているのか、減っているのかなど、最近の動向や傾向を教えていただきたい。

○委員 当院は慢性療養型で難病患者に特化 (9割5分くらい) した病院のため、一般の病院とは入院患者の受入状況は異なり、ほとんど新潟市内、或いは新発田近隣の病院からの受け入れである。

逆に、入院患者に合併症や、急な病状変化が起き、当院で対応できないときにあがの市民病院や県立新発田病院へ紹介するという場合も結構ある。ただし、あがの市民病院は対応できる疾患に限られるため、県立新発田病院や新潟市民病院へ願う場面が多いというのが現状。

○委員 県立新発田病院についても、地域との連携は一生懸命進めているが、地域の病床が混むと県立新発田病院の病床も混む傾向がある。昨年以前は紹介に対応できないこともあったが、地域の医療機関と連携を密にしながら、患者が溢れないよ

うな取り組みをし、対応している。

○委員 開業医の立場から申し上げますと（受け入れ態勢について支部の会員に意見を聞いたわけではないので個人的な意見にはなるが）、特殊事情を除けばほぼ断られることなくスムーズに受け入れていただいております、感謝しています。実績が増加したのも納得できる受入態勢だと感じる。

○委員 病院から皆さまへの、こちらから受け入れを進めたいとか、日ごろから連携を図りたいというような情報提供などを進めることによってより進むものか。それとも、こうするとよりこの連携が深まるというものはあるか。

○委員 藤森院長は医師会の集まりがあると、いつでも受け入れると必ず言ってくさるので、医師会としては皆さんかなり頼りにしていると思う。

○委員 病院の他に介護老人保健施設、特別養護老人ホームを運営しているが、入所者に訪問診療レベルでは対応できない問題が生じたときは、あがの市民病院が受け入れてくれる。その点では介護施設との連携はうまくいっていると思う。

○委員 介護施設との連携体制の構築が診療報酬や介護点数に関わるので、従前に比べて連携しようという姿勢がお互いにあると思う。

○委員 良いところをより伸ばすことも経営改善につながると思い、良いところをあえてお聞きした次第である。

○委員 藤森院長は研修医の受け入れに積極的である。数か月の短期間の研修医が来るが、若く優秀な先生方が多く来る。このような先生にも診ていただいているので、かなりの確率で受け入れていただいております、とても助かっている。

○委員 診療報酬改定が予定されているが、この影響についてどのようにお考えか。

○委員 急性期病院が優遇されている改定であり、当院のような慢性療養型への配慮が足りないと感じる。厳しい状況。

○委員 診療報酬が平均3.09%上がることには期待しているが、薬価の引き下げがどのように影響するか今時点では言いづらい。また、診療報酬が上がると言っても、物価や人件費上昇分に充てる前提になっているので、差額のメリットはあまりないし、施設基準も厳しくなるため、診療報酬の上昇分を獲得できるかは、今後示される基準を見てもわからない。

○委員 訪問看護の件数があまり変わりなかった。以前は利用される訪問看護ステーションがあがの市民病院のみであったが、今は複数の業者が入っている。ここのステーションに資料を出してくださいと、ケアマネージャーが話を持ってくる。あがの市民病院のステーションに誘導する策を講じなければ増えない。市外のステーションも参入している。

○事務局 そのような状況は把握していなかった。

○委員 ケアマネージャー経由で話が決まった状態で話が来るので、変えようがない。私が新たに訪問看護を利用した方がいいと患者さんにお話しする場合は、あがの市民病院につながが、ケアマネージャーに誘導されるとステーションが決まってしまう。

○事務局 ステーションによって、夜中に来てくれるなど、訪問看護のサービスに違いはあるのか。

○委員 あがの市民病院にお願いするときは、急変時に対応してもらえるよう、24時間対応で契約してもらおうが、そこまでできない事業所もおそらくあり、軽度で、バイタルサインだけ見に行くような、あえて入れなくてもいいのではないかと思うような人も計画に入っている。公的な機関のケアマネージャーはあがの市民病院を選ぶのかもしれないが、民間のケアマネージャーは当然自身の所属する事業所のステーションを優先するので、これによって実績が伸びないというのが実情。

○委員 次第（4）その他について、事務局から追加説明はあるか。

○事務局 特にない。

○委員 再度全体を通してご質問、ご意見があれば伺う。

○委員 収入を上げるには、患者数を増やして少しでもベッドを埋めること。そのためには、診れる医師を確保する。なんでも引き受けてくれる医師や手術件数を増やすためには手術をできる医師を確保することが重要。単純なことであるがここが一番の問題点。新潟県全体が医師不足であり、阿賀野市だけの問題ではないので、いかに診療に携わる医師を確保できるかにかかっていると思う。取れる点数は取りこぼしのないよう収入を積み重ねていくという取り組みを地道にしていくしかないと思う。また、患者が減るのは、人口減少という地域全体の問題。高齢化率は上がっているが、実数は減っている。阿賀野市内の高齢者が減っているのは以前から問題視されており、病院だけでなく、介護施設の入所者確保も各施設が競争しているのが実情。そんな中でいかにあがの市民病院の魅力を打ち出していくかは難しいところではあるが、藤森院長筆頭に非常に頑張ってくださっているので、それに対して、阿賀野市としては後方支援として、大学との関係を構築し、医師を少しでも確保するという事を今後も進めていただければと思う。

○委員 来年度から増設する寄附講座で今まで不在だった循環器の常勤医が確保されることで、受け入れ態勢もより充実したものになることを期待している。

○委員 寄附講座には医師確保につながるという大きな目標もあるが、阿賀野市民の健康維持・増進に寄与できるという点もあり、市の財政から支援する価値は十分にあると思うので、今後も継続していただければと思う。

○委員 ここで会議を締めさせていただきます。

○事務局 副会長へ閉会の挨拶を依頼。

○委員 あがの市民病院は阿賀野市になくてはならない病院なので、何としても支援していかなくてはならない。診療できる医師を少しでも確保するという事が前提なので、いろんな手を尽くして医師を定着させ、患者を増やすことが大事だと思う。できれば休床中の病棟を活用できるくらいの患者がいればいいが、難しい状況なので、稼働病床を少しでも埋められるようになればと思う。医師会阿賀野支部ともども病院を盛り上げていきたいと思っているので、今後ともよろしくお願いしたい。

○事務局 ありがとうございます。これにて本日の日程は終了となります。皆様、本日はお忙しい中、ありがとうございました。